

一般質問のご報告①

滞納金問題解決のため、 抜本的取り組みを進めなければなりません。

■滞納金問題の現状

西宮市の年間予算は約2,700億円、財政赤字が178億円を超えると財政再建団体に転落するおそれがあります(=実質的な倒産)。一方、西宮市が抱える滞納金額は約200億円。この**滞納金**が**不良債権化した場合、西宮市は倒産することになりかねません**。巨額の滞納金が市財政に与える影響は甚大であり、早急かつ抜本的な取り組みが必要です。

■実効性がある対策の実施と、人員・組織の拡充が必要です

例えば「災害援護資金貸付金元利金」の滞納金額は約51億円、滞納者数は3,153人に上りますが、この巨額の滞納金の整理担当者は、わずか3人です。こうした傾向は滞納金を抱える全ての部門に共通しており、**滞納整理担当者**の**人数は、いずれの部門においても滞納金額・人数と比較して極端に少なくなっています**。その結果、滞納金を抱える22部門中6部門しか、差し押さえ等の強制徴収手続き・裁判所への申し立て等の対策に取り組めていません。滞納整理を進めるためには、こうした実効性のある対策の実施が不可欠であり、そのためには早急な人員・組織の拡充が必要です。

市立中央病院の経営見直しについて。

病院経営という観点を忘れてはいけません。

■給与水準の見直しが必要です。

中央病院は年間赤字額・約10億円という危機的な経営状態にあります。その要因として**一般的な黒字病院では50%程度とされる収入に対する人件費の割合が、中央病院では約70%に上ることがあげられます**。この**人件費率の高さは看護職等、医師以外の職員の給与水準が極めて高いことに起因します**。6月議会において、中央病院に

■組織の見直し、情報共有の推進を

効果的・効率的な滞納整理という観点からは、組織の見直しも重要です。現在は、各局のそれぞれの部門が個別に滞納整理に取り組んでいます。こうした形を改め、部門を統合した滞納整理専門部署を各局に設置することで、効果的・効率的な滞納整理が可能になります。これに加え、各局の担当部署では対応困難な悪質滞納者問題に取り組む、全庁横断的な部署を設置することで、効果的・効率的な体制が整います。

また、滞納者情報の整理・共有も重要です。各部署が持つ情報を共有することによって、支払い能力があるにも関わらず、滞納を続ける悪質滞納者が明らかになります。これによって、悪質滞納者への重点的働きかけが可能になります。

■引き続き、積極的に取り組みます

一連の指摘と提案に対して、当局は具体的な検討を進めていくことを約束しました。国から地方への税源移譲・高齢化の進行に伴う国保被保険者世帯数の増加などの要因もあり、滞納金問題は、今後一層、拡大・困難化することが予想されます。**滞納金問題の深刻化は財政状況の悪化に直結し、財政状況の悪化は市民サービスの低下につながります**。こうした悪循環を断ち切るため、今後も滞納金問題に積極的に取り組んでまいります。

勤務する医師等の各種手当を拡充する条例案が提出され、可決・成立しました。全国的問題となっている医師不足への対処、夜間・緊急時の救急医療体制強化のため、医師の待遇改善は必要です。一方で、前述の経営状態を踏まえるなら、**本来、医師の待遇改善は、他職種職員の給与水準見直しとセットで行うべきです**。市が進める中央病院の見直しに際し、厳しい指摘を続けてまいります。

一般質問のご報告②

「減災」は、待ったなしの緊急課題です。

大規模災害発生に備えた 災害弱者支援体制を早急に整備すべきです。

■災害弱者支援の重要性

五月に四川大地震が、六月には岩手・宮城内陸地震が発生するなど大規模災害が頻発しています。また近い将来、東南海地震の発生も危惧されています。行政は、災害発生による被害を最小限に抑える「減災」に積極的に取り組まなければなりません。市内には、高齢者・心身障害者・妊産婦・乳幼児といった、安全な場所への避難等の防災行動を取ることが困難な災害弱者が多数在住しています。災害弱者への支援活動は多岐にわたりますが、**安否確認、必要に応じた救出・介護等の支援活動を行うことができる体制を整備することが、最も重要です**。

■情報の把握と共有が重要です

災害発生時、災害弱者に対する支援活動を行うためには、平常時から災害弱者に関する住所・氏名等の情報を収集・整理しておく必要があります。ところが現在、心身障害者・妊産婦・乳幼児に関

する情報は全く把握できていません。また最も対応が進んでいる高齢者の情報でさえ、把握率は全体のわずか20%に留まります。まずは災害弱者に関する情報の収集・整理を進めるべきです。

また災害発生時、行政だけの力で十分な支援活動を行うことは困難です。市は消防団・自主防災会・自治会等の協力を得て支援活動を行うとしていますが、各団体は市との情報共有が進んでいないため、災害弱者に関する情報を把握できていません。これでは各団体が災害弱者に対する支援活動を行うことは困難です。早急に、市と、これらの団体の情報共有を進めるべきです。

■減災・命を守るために

当局は指摘内容を真摯に受け止め、課題の改善に積極的に取り組むことを約束しました。住民の命を守ることは、行政の最も重要な責務の一つです。今後の対応を厳しく見守るとともに、積極的に指摘・提案を続けてまいります。

総合計画策定の取り組みについて。

西宮が目指す、将来の姿を示す「総合計画」。 この重要計画の策定に、精力的に取り組んでいます。

■総合計画の重要性と議会の取り組み

現在、西宮市は第四次総合計画の策定に取り組んでいます。総合計画は地方自治体が策定する全ての計画の基本となる、最も重要な計画です。計画の対象期間は2009年度から2018年度までの10年間に及び、本市の目標とする都市像・抱える課題・課題解決のための施策等が示されることから、高い完成度が求められます。しかしながら、市が提示する現在の計画案には、

○過大な収入を前提とした財政予測に基づいている
○目標とする都市像が抽象的であり、市が抱える課題・課題解決のための施策も整理されていない等、多くの問題点があります。

現在、市議会では会派の枠を超えて有志議員が集い、市から提示された計画案への対案作成に取り組んでいます。よりよい総合計画を策定するため、こうした新たな試みにも精力的に取り組んでまいります。

「西宮市議会議員・しぶや祐介の活動日記」(<http://y-shibuya.blogzine.jp/blog/>)で、更に詳しい情報をご覧ください！(※アドレス変更しました※)